

～新型コロナウイルス感染症とがん治療についてのQ&A～

化学療法サポートチーム

2020年5月バージョン

がんの治療は、生命予後や生活の質の向上が期待されるから行うものですが、新型コロナウイルス感染症が広がっている状況下では感染リスクも考えて行う必要があります。私たち医療スタッフはこのことをよく考えて日々の治療を行っており、病院内はもちろん周辺地域の感染状況にも毎日注意を払っています。もし治療を受けること、治療のため病院に来ることの危険が治療の利点を上回ると判断した場合は治療の中断を検討し、この場合はただちに患者様にお知らせいたしますのでご安心ください。

私たちはがん患者様が抱かれる疑問や不安を想定して、これに対する回答を作成いたしました。全く未知の感染症ですからまだ十分な科学的根拠を持ってご説明できない部分もありますし、時間の経過とともに状況は変化し、対応も変わってくるでしょう。担当医や看護師、薬剤師、総合支援センタースタッフにも遠慮なくご相談ください。回答の作成に当たってはがん関連3学会（日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会）合同で作成された、「がん患者さん向けQ&A」¹から引用した内容もあります。こちらも是非ご覧ください。

1 <http://www.jsco.or.jp/guide/index/page/id/255>

<日常の不安>

Q. 抗がん剤治療中ですが、普段の生活で気をつけることは？

A. がんではない方と同じ注意をより一層心がけることです。新型コロナウイルス感染症は咳やくしゃみによる飛沫感染、手指を介して目、鼻、口の粘膜から感染する接触感染で広がるとされています。気をつけることとして、外出をなるべく避ける、人混みを避ける、3つの密（密集、密閉、密接）を避ける、マスクをつける、こまめに手洗いする、手で目、鼻、口を直に触らないようにする、などが挙げられます。また、ウイルスが衣服や顔などに付いたらある程度の時間残留すると言われておりますので、帰宅したら早めに着替え、洗顔をするのも有効でしょう。

Q. 抗がん剤治療中ですが、発熱や息苦しさがあった場合どのように対処すれば良いですか？

A. 厚生労働省が示す「新型コロナウイルス感染症についての相談・受診の目安」は5月8日に改訂されました。この中で抗がん剤治療中の方は高齢者、糖尿病、心不全、慢性呼吸器疾患と同様に重症化しやすい素因を持つ方であり、比較的軽い風邪症状でも続く場合は「帰国者・接触者相談センター」に相談する、となっています。

抗がん剤治療中の方は、発熱や息苦しさ、味覚の異常などがあった場合にご自身のみで判断するのではなく、まず担当医に相談することをお勧めします。それは抗がん剤の副作用で免疫が落ちて発熱する、抗がん剤特有の肺炎になる、副作用で味覚がおかしくなるなどの可能性もあり、受けている抗がん剤の情報が重要になるからです。熱や咳がある場合はいきなり病院には来ないで、必ずお電話で状況を伝えて病院からの指示に従ってください。もし「帰国者・接触者相談センター」に相談される場合は必ず抗がん剤治療を受けていることを伝えましょう。

Q. 現在抗がん剤治療中ですが感染してないか心配です。PCR 検査を受けた方が良いですか？

A. インフルエンザと違って新型コロナウイルス感染症は感染していても症状がほとんど出ないことがあります。もし無症状の感染者になっていた場合抗がん剤治療を受けるのは危険ではないか、と感じられるかもしれません。だからといって PCR 検査（正確には RT-PCR 検査）を受けることが絶対必要とは言えないのです。以下にその理由をお示しします。

仮に無症状の方 1000 人に PCR 検査を行うとします。また無症状の新型コロナウイルス感染率を 3%と仮定します。PCR 検査の限界として感度（感染者が正しく陽性となる確率）が 70%程度、特異度（感染していない者が正しく陰性となる確率）は 99%程度であると言われています。1000 人のうち真の感染者は 30 人ですがそのうち陽性と診断されるのは 21 人、残る 9 人は感染しているのに陰性となります。また別の 10 人程の方は感染していないのに陽性（偽陽性）になります。従って、この 1000 人のうち正しく感染者と診断されるのは 21 人です。他の 19 人は間違った診断を受け、残る 960 人は正しく陰性と診断されるのですが偽陰性の可能性に怯えなくてはなりません。このように PCR 検査を受けたとしても必ずしも良い結果に繋がるとは言えず、それよりも必要な治療をしっかり注意点を守

って受ける方が良いと思われます。

Q. がん患者は新型コロナウイルス感染症にかかった場合悪くなりやすいのでしょうか？

A. がんになると免疫力が低下すると言われ、また抗がん剤治療によっても免疫力が落ちると考えられますので、がん患者さんは十分に予防対策を行う必要があります。行うべきことはがんではない方と同じで、3密を避ける、手洗い、マスクをする、手で目鼻口を直接触らない、などに尽きます。

がん患者さんが新型コロナウイルス感染症にかかった場合重症化しやすいという中国からの報告²があり注意が必要ですが、調べたがん患者さんの症例数が少なく詳しいことはわかりません。ニューヨークの病院で、新型コロナウイルスに感染したがん患者さんとそうでない患者さんの経過を調べた結果が、速報版で報告されています³。これによると、PCRでCOVID-19陽性が確認された334人のがん患者さん（乳腺、前立腺、肺、尿管、大腸）と5354人のがんではない患者さんを比較したところ、がん患者さんでは気管内挿管をされた割合は多かったものの死亡率には差はありませんでした。単純に比較しただけのデータではありますが、少なくともがんがあるとただちに死亡率が上がるわけでは無さそうです。

2 www.thelancet.com/oncology Vol 21 March 2020

3 <https://doi.org/10.1016/j.annonc.2020.04.006>

<治療・通院に関する疑問>

Q. 現在外来通院で抗がん剤治療を受けていますが、新型コロナウイルス感染症が心配です。延期することは可能でしょうか？

A. 抗がん剤治療が必要な理由は担当医からお聞きになって受けておられると思いますが、新型コロナウイルス感染症にかかったらどうなるのか不安があると思います。抗がん剤の種類によっては免疫機能が低下して新型コロナウイルス感染症にかかった場合重症化しやすくなる可能性が指摘されています。抗がん剤を延期あるいは中止できるかどうかを考えるには、延期・中止によって予測されるデメリットやその時々流行状況を見極める必要があります。個々の病状によって判断は変わるでしょうし、医師や薬剤師によって意見が食い違うこともあると思います。担当医や看護師にご自身の不安や考えを伝えてよく相談することが大切です。

Q. 新型コロナウイルス感染症が流行している状況でがんの手術を受けるとむしろ危険ということはないでしょうか？

A. 患者さん自身が新型コロナウイルス感染症にかかっていないことを前提にご説明します。確かに手術を受けた後に感染してしまうと大変だと感じられるのは無理もないでしょう。

がんの手術はできれば早くしたほうが良いことが多いので、基本的には適切な感染予防策を講じたうえで慎重に実施いたします。手術の実施について考えるためにはまず病院および地域の状況を把握する必要があります。もし新型コロナウイルス感染症の広がりが深刻な状況ならば、病院の重症対応力が低下し医療資材が枯渇するため、手術が安全にできなくなることもあり、また術後に感染してしまう危険も高まるでしょう。手術を行わないとどのような経過になるか、手術の延期は差し支えないか、手術以外の治療法が選択できるか、など様々な因子を考慮して判断することになります。がんの種類にもよりますが、早期がんならばある程度延期が可能なこともあります。不安があれば遠慮なく担当医にご相談ください。

各種学会から、手術の必要度や施設のひっ迫度に応じた外科手術（がんに限らず）の実施基準が提言されています⁴。

4. <https://www.jssoc.or.jp/aboutus/coronavirus/info20200414.html>

Q. 過去にがんの手術を受けて定期的に通院しています。通院を延期しても良いでしょうか？

A. 一般にがんの手術後はお身体の状態や再発の有無などを調べるため、一定期間の通院をして検査を受けることが推奨されています。通院や検査の頻度や期間はがんの種類によって違います。新型コロナウイルス感染症が流行している時期には病院に行くのも可能な限り避けたほうが良いので、がんの手術後通院も延期したほうが良いこともあります。延期すべきかどうかの判断は、通院や検査の必要度、お身体の状態、感染症の流行度合いなどで変わりますので、ご自身で判断されるのではなく担当医にご相談ください。

<参考：2020年5月12日現在の日本の新型コロナウイルス感染状況>

—全国—

感染者数：人口10万人あたり12.6人（実数15,705人）

死亡数：人口10万人あたり0.5人、感染者に対する割合：3.97%

—兵庫県—

感染者数：人口10万人あたり12.7人（実数694人）

死亡数：人口10万人あたり0.6人、感染者に対する割合：4.72%

（以上、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議 5月14日報告より）

感染しても大半は無症状～軽い風邪症状のみで自然に治ってしまいます。一部の方においては感染・発症から短期間（多くは1週間前後）で肺炎を起こし、中には数時間のうちに重症化することがあります。

高齢者、糖尿病・心不全・呼吸器疾患のある方、人工透析を受けている方、免疫抑制剤や抗がん剤の投与を受けている方において重症化しやすいとされています。症状は長く続く発熱、咽頭痛、咳、下痢、臭覚や味覚異常が報告されていますが、どの症状が出るか、どのくらい強く出るかは個人差が大きいと言われています。

抗がん剤治療中の方は抗がん剤の副作用によって同じような症状が出ることもあります。また、抗がん剤の種類やスケジュールによって感染や副作用の出る可能性や時期が変わりますので、症状だけで判断せず担当医にご相談をお願いします。